

「楽々学び交流」の先に
6月1日、市健康ふれあいプラザにて志布志みなとロータリークラブ（黒木弘会長）主催の外国人居住者のつどいが開催されました。

この日参加した外国人は、2事業所から計21人で、出身国はフィリピンとベトナム、ラオスでした。参加者は、無料のピロリ菌検査を受けた後、茶道を体験しました。志布志茶道同好会の3人の協力により、お茶のたて方・飲み方、和菓子（練り切り）の食べ方の作法を学んでいました。

初めての経験に驚きの声があがり、動画を撮影しSNSで発信するなど会場は大盛況。昼食も一緒に食べ、にぎわう交流の場となりました。

この取組について、濱崎喜與志国際奉仕委員長は「3年連続の取組。昨年まではピロリ菌検査とバーベキューだったが、今回は体験コンテンツにも取り組んだ。外国人の方々はこの地域での生活を楽しんでいたが、地域の関係人口拡大、将来的な人口増につながるよう、今後も国際交流を継続していきたい」と話しました。

外国人参加者に取材したところ、「今後とも参加したい」、「もっと日本のこと

【外国人参加者のこえ】

- ・自分でつくったお茶は美味しかった！
- ・ペットボトルのお茶とは全然違う！
- ・着物が素敵！



市健康ふれあいプラザにて
外国人参加者
2事業所 21名

を知りたい」「日本語をもっと勉強したい」との意見が次々出てきました。この日は、市内にてボランティアで日本語教育を行っている上村昌弘さん（志布志町帖）も参加していました。

上村さんは市内企業の依頼を受け、月2回合計3時間の日本語教室を開催しています。「外国人は増加の一途だが、地域で外国人に日本語を教える人材は増えていない。私にはできないと勝手に思い込んでいた方も多いため。まずは一度今回のような交流会への参加や、地域に住む外国人の方と気軽にコミュニケーションを取ってみると楽しくなると思う。」と話しました。

外国人居住者が増加を続ける今、同じ地域に住む私たちの関わり方も問われているのではないのでしょうか。

「英語が話せないから交流できないんじゃないか」、「鹿児島弁が伝わらないかも」、「私には関係のないこと」。

そんなことはありません。今、地域で起きていることを自分ごととしてとらえ、一歩踏み出してみませんか？

その歩みの先には、「ともに暮らしやすい地域」が広がり、明るい声が飛び交い、笑顔の市民であふれているはずです。

るうちに、どんどん分かるようになりまし。今では鹿児島弁が面白く感じまし、かわいい感じもします。

介護の仕事は、力も必要です。入浴介助など、暑い時期は特に大変ですが、職員の皆さんが私たちに丁寧に教えてくれたので、私たちもできるようになりました。

利用者の皆さんは、もちろん一人一人性格が違います。そのことで、コミュニケーションをとるのが難しかったです。今では、違いを理解し楽しんでます。

2月に開催された交流会は、私たちは2人も参加しました。同じインドネシア出身の人たちや地域の人たちとたくさん話すことができました。今でも休みの日は一緒にご飯を食べたりしますよ。また交流会があったら参加したいです。皆でスポーツしたり、歌を歌ったり、踊ったりしたら楽しそう。

私たちは、あと半年ほどでインドネシアに帰国することになるとありますが、まだまだ日本で経験したいこともたくさんあります。

日本はとても魅力的です。景色がいいところが多く、アニメもとても興味深いです。泰野地域もとても環境が良いです。毎日自転車で仕事に來ますが、ごみ一つ見かけない。この光景は、インドネシアではあり得ませんよ。

この2年半の経験で、私たちは夢を持ちました。

（アイサーさん）

私は、馬刺しや寿司、刺身など日本の生食文化がとても気に入りました。インドネシアに帰国したら、若い方からおじいちゃん、おばあちゃんまで気に入ってもらえるような日本食レストランをオープンさせたいです。

（ラヴィナさん）

私は、勉強した日本語を母国の人たちに教えたいので、日本語の先生になりたいと思っています。

夢に向かって、日本で精一杯努力して、毎日をハッピーに過ごしたいです。お話を聞いてくれてありがとうございます。

進む多文化共生の取組

急増する外国人と、ともに文化を認め合い、地域の住民同士、対等な関係で暮らしていくためのアクションはさまざまところで起きています。

志布志みなとロータリークラブでは、年1回の外国人居住者のつどいを定着化させています。（この取組は次のページにて紹介しています）

また、教育委員会生涯学習課は、初の試みとなる国際交流イベントを7月25日に予定しています。

このイベントでは、市内の小・中学生と地域住民、外国人実習生、外国人実習生を雇用する企業従業員が互いを知り、理解するきっかけづくりを行います。通山校区コミュニティ協議会とサンキョーミート株式会社の協力もあり、はじめの一步を踏み出そうとしています。

コミュニティ推進課は、市役所を訪れる外国人への行政サービスの充実を目的に、今年度中に多言語翻訳アプリを導入予定です。

透明なディスプレイをはさんで会話することで、窓口を訪れた外国人が話



した内容が、職員側にすぐに日本語で表示され、職員が話した言葉がすぐに相手の話した言語に翻訳され、相手側で表示される仕組みで、円滑で細やかな窓口、相談業務につながります。

また、総合政策課では、日本語で作成した冊子（広報紙やパンフレットなど）をデジタル化して、スマートフォンやタブレットなどで多言語で配信できる情報発信ツールの導入を予定しています。

これらの導入により、窓口・オンライン、いずれも充実した行政サービスの提供を実現させることで、外国人も暮らしやすい地域環境の整備を進めています。